ごみの減量を目指して
先進地を視察

地域コミュニティセンター運営委員の皆さん

私たちの生活が向上するにつれごみの量も増えつづけています。都留市のごみは田野倉の大月都留広域事務組合で焼却処理されています。この焼却施設は、昭和五十八年に完成した県内でも有数の近代的施設ですが、ごみの増加がこのまま続きますと、近い将来、処理しきれなくなってしまいます。

また、ごみの減量は、資源保護環境保全という意味でも私たちが真剣に取り組まなければならない重要な問題です。

増え続けるごみの減量に市民自ら取り組もうと、東桂・禾生・盛里地域コミュニティセンター運営委員の皆さんが、ごみ処理先進地の三島市と函南町にある狩野川東部流域下水道を、また宝地域コミュニティセンター運営委員の皆さんが、ごみの分別収集を実施している沼津市環境センターを視察しました。

視察して感じたこと

東桂地域コミュニティセンター
運営委員長　中野　勉

今回の研修の中から、三島市で取り組み、成果を上げていると報告された事項について特記してみたい。それは資源ごみ報償制です。昭和五十九年に制定され、市民サイドの運動として今日迄大きな盛りあがりをみせ、昨年度の実績として資源ごみ一、三四九トンを回収しました。参加団体は、自治会、子供クラブ等、一三一団体。市当局より、キロ当り四円を助成金として交付しているとのこと。分別収集の一環としても、また、焦眉の急とされるごみ問題に自ら目を向けさせ自覚を促す上にも誠に有効適切な手段でもあろうかと考えさせられました。

盛里地域コミュニティセンター
運営委員長　小俣　啓作

美しいまちづくり、清潔な環境づくりに努力していることがうかがえました。各家庭より毎日出されるごみの減量について住民に働きかけ、その動きの中で資源の有効利用の方法をとっております。

私たちの地域でも生ごみ処理器等の使用により少しでも減らして行くのが私共の任務だと思います。

禾生地域コミュニティセンター
運営委員長　新海　博

新幹線開通で急速な都市化によるごみの増加と質的変化に対応するための最新施設による処理の実態、及び狩野川の水質保全と快適な都市環境を目指して流域五町を対象に下水処理を行っている先進地施設での研修は有意義でした。

近い将来、都留市にもこのような施設が建設されることを期待します。また、この研修会で得たものが我々の地域の生活環境の整備と向上に少しでも役立つよう努力したいと思います。

宝地域コミュニティセンター
運営委員長　小林　建二

二月八日、私たち運営委員は先進地である今話題の沼津方式を見て来ました。〝捨てればごみ　生かせば資源〟と収集車に書いた標語そのままに分別処理を励行している様子に接し、一日も早く市を挙げてやらねばと痛感しました。

なお、宝地区では、今年、ごみ処理器百個の利用増をめざして自家処理でのごみ減量化運動を進め、住み良い生活環境づくりに取り組んで行きたいと思います。

宝地域コミュニティセンター
運営委員　早川　昭子

先ず最初に驚いた事は、沼津市内の何処にもごみステーションがなく、きれいに清掃されている事でした。

これは、分別収集の徹底と市民の自主管理責任として排出物の整理、収集後の清掃等を当番制で行っているからとの事です。私達も、今から実行できる身近な所からごみの減量化に努め、生ごみ処理容器の活用と燃えるごみは家庭で処理するなど資源の再利用やごみの減量化に一層の努力をして行きたいと思います。

沼津市の「分ければ資源、まぜればごみ」の標語が印象的でした。

盛里地域コミュニティセンター
運営委員　清水　米子

都市化現象による人口増は、ごみの量の増加をもたらしており、ごみの減量とリサイクルのシステム化をめざし、空びん、古紙など再利用できるものは、報奨金を出して回収しているとのこと。私達の地域でもごみの減量化に取り組み、明るく住みよい環境づくりに努めたいと思いました。